

2022 年 9 月 9 日発行(22-1 号)

一般社団法人日本社会福祉学会

中国・四国地域ブロック会報

発行者: 中国・四国地域ブロック担当理事
山本浩史(新見公立大学)

編集委員: 片岡信之(四国学院大学)
村岡則子(聖カタリナ大学)

事務局: 川崎医療福祉大学 岡崎利治
岡山県倉敷市松島 288

ホームページ: http://www.jssw.jp/district/chu_sikoku.html

目次

I. 巻頭言	1 -
II. 2022 年度地域ブロック大会報告	8 -
III. リレーエッセイ	9 -
IV. 機関誌投稿原稿募集のお知らせ	11 -

I. 巻頭言

中国・四国地域ブロック担当理事 山本浩史(新見公立大学)

この度の選挙により地域ブロック担当理事に再選いたしました。2 期目となりますが、引き続き 2 年間、よろしくお願い申し上げます。

社会に目を向ければ、世界情勢ではロシアとウクライナとの戦争状態は続き、そして、国内では元首相暗殺事件、宗教と政治、靈感商法……。日常は未だコロナ禍にあり、収束の兆しが見えたかと思えば、また感染の波が押し寄せるといった状況を繰り返しています。しかしながら、一方でこのような状況が長期化すればするほど、コロナに対する緊張感も解け、感覚が麻痺してしまうことがあるようにも思います。このような時こそ、しっかりと社会や生活に目を向けなければならないでしょう。

またヤングケアラーという言葉が、社会の中で一般化してきています。今回の第 53 回ブロック大会のシンポジウムのテーマでもありました。先日、ある会議で行政職員にヤングケアラーの実態を質問したところ、議会でも議員に質問されるが、ヤングケアラーの定義も曖昧だし、本当に存在しているのだろうか、どこまでのケアを問題視しているのだろうか、例えば姉が妹のお世話をするのが、なぜいけないことなのか、この経験が成長において、いい影響になるのではないかといった旨の返答を受けました。確かに定義とその程度には曖昧さがあると言うのは、行政職員の立場から言えば、そうなのか……。とも思いました。また

経験と言え、そうなのかも知れません。しかし、そのケアにより、基本的権利である教育の機会が奪われ、その子どものふつうの暮らしの営みが奪われている状態を善しとしてはいはざありません。そして、その子どもたちの多くは、悩みを発信できない、あるいは、自分自身が相談すべき対象者だと認識できていないという現状にもあると思います。その存在の多寡を問題視することなく、またブームのようにこの事象を見るのではなく、子どもの日常という視点で、見て行く必要があるのではないのでしょうか。

さて、ブロック大会ですが、2年連続で岡山県の大学による開催となりましたが、第53回ブロック大会は、久しぶりの対面によりノートルダム清心女子大学において、盛況に行うことができました。これもノートルダム清心女子大学の教員の皆様、スタッフの皆様のご尽力によるものだと思っております。心より感謝申し上げます。特にノートルダム清心女子大学開催においては、学会員の在籍が3名といった状況の中で大会を準備し、大会運営を担っていただきました。このことは、会員数が少ないから大会を引受けることができない理由にはならないという証にもなりました。言い換えれば、コンパクトにブロック大会を開催できるということでもあります。

このブロック大会では、通常通り対面による総会を開き、資料1～4についてご承認いただきましたので、以下について承認されましたので、この紙面をお借りし、ご報告させていただきます。

特に皆様にご承知いただきたいのは、ブロック大会開催校の輪番制です。これまで、開催がある県や大学に集中してしまい、ご負担をおかけする等の状態がありました。そこでブロック大会の輪番制を提案し、これについて満場一致で承認を得ました。

大会開催校の条件としては、大会を受け入れる母体となる福祉系学部または学科があり、現時点で3名以上の会員の在籍が確認できた大学といたしました。その結果、表のような輪番制となります（54回から68回大会で1クール、以降、この順番で輪番とする）。勿論、その時のご事情により、順番の変更があることは想定されるのと、現在3名以上の会員が在籍しない大学においても、将来的に会員在籍数が増えた場合、この輪番制の中に入っていたくこともあるかと思われます。またその逆もあるかと思われます。

開催準備、運営においてはブロック役員もサポートいたします。学会員の皆様と創りあげて行くブロック大会にしていきたいと思ひます。

学術学会において、大会は重要な研究活動の場でもあります。学会員の責務として皆様には、ご理解いただき、ご尽力を賜りますよう、何卒よろしくお祈り申し上げます。

資料：

1. 2021年度事業報告及び決算報告
2. 2022年度事業計画及び予算
3. 中国・四国ブロック役員体制
4. 今後の中国・四国ブロック大会の開催校について

一般社団法人日本社会福祉学会 2021 年度事業報告書

1. 2021 年度において推進した事業

(1) 部会委員会の開催

- ・第 1 回ブロック運営委員会 (ZOOM 開催) 2021 年 5 月 21 日 (金) 19:00~20:00
- ・第 2 回ブロック運営委員会 (ZOOM 開催) 2021 年 9 月 1 日 (水) 19:00~20:00
- ・第 3 回ブロック運営委員会 (ZOOM 開催) 2021 年 12 月 28 日 (火) 19:00~20:00
- ・第 4 回ブロック運営委員会 (ZOOM 開催) 2022 年 3 月 17 日 (木) 19:30~20:30

(2) 中国・四国地域ブロック総会

- ・2021 年 7 月 10 日 (土) 第 52 回ブロック大会 (オンライン開催: 川崎医療福祉大学) において総会をオンラインにより開催し、2020 年度決算報告及び事業報告、2021 年度事業計画、予算について説明を行った。

(3) 中国・四国ブロック大会

- ・第 52 回中国・四国ブロック大会 (オンライン開催: 川崎医療福祉大学)
- ・大会テーマ 社会福祉から、人の「はたらく」を問い直す
- ・日時 2021 年 7 月 10 日 (土) 9 時 30 分~16 時

(4) 中国・四国地域ブロック会報 (電子媒体) の発行

- ・21-1 号を 2021 年 9 月 6 日に発行
- ・21-2 号を 2021 年 2 月 14 日に発行

(5) 中国・四国地域ブロック機関誌「中国・四国社会福祉研究」(電子媒体) の発行

- ・第 9 号を 2022 年 3 月に発刊した (投稿掲載論文 3 本)。

(6) 第 18 回 日本社会福祉学会フォーラム「国際化する福祉人材と社会福祉運営管理 ～地域共生社会を志向するなかで～」8 2022 年 2 月 12 日 (土) 13:30~17:00 オンライン開催) を主催した。

シンポジスト: 河内康文 (高知県立大学准教授)、寶子丸周吾 (福山市・社会福祉法人「ゼノ」少年牧場理事長)、山中康平 (尾道市・社会福祉法人新生福祉会理事長)、久保田トミ子 (広島国際大学名誉教授)

コメンテーター: 和気純子 (東京都立大学教授)

コーディネーター: 岡崎仁史 (広島国際大学名誉教授)

2. 現在、検討している事項

- ・第 53 回ブロック大会 (開催校: ノートルダム清心女子大学) 2022 年 7 月 10 日 (土)、対面開催による実施に向けて準備中である。

3. その他 (課題等)

- ・特に現段階での課題はないが、ブロック大会の開催校について、公平に各校が担当する仕組みを検討し、その案を作成し、第 4 回ブロック運営委員会において承認を受けた。第 53 回大会で開催するブロック総会においてブロック会員の承認を得るよう進める。

(一社)日本社会福祉学会 中国四国地域ブロック 2021年度 決算書

【収入の部】

2022年4月1日作成

科	目	2020年度	2021年度	
大科目(款)	中科目(項)	小科目(目)	決算額	予算額 決算額
受取会費			0	0 0
	受取賛助会費		0	0 0
事業収益			2,570	0 0
	大会参加費収益		0	0 0
	開催校助成収益		0	0 0
	機関誌売上収益		0	0 0
	広告料収益		0	0 0
	書籍販売収益		2,570	0 0
	大会資料等収益		0	0 0
受取寄付金			0	0 0
	受取寄付金		0	0 0
雑収益			3	3 8
	受取利息		3	3 8
	その他の収益		0	2,640
他会計繰入金収入			725,000	725,000 721,400
中国四国地域ブロック収入合計			727,573	725,003 724,048

【支出の部】

事業費	大会費		125,400	735,438	216,735
		大会会場経費	0	100,000	29,700
		大会運営費	124,960	314,448	103,080
		大会企画費	0	285,000	76,252
		雑費	440	35,990	7,703
	機関誌刊行費		0	156,000	197,560
		業務委託費	0	120,000	197,560
		印刷製本費	0	0	0
		通信運搬費	0	5,000	0
		支払報酬費	0	30,000	0
		図書資料費	0	0	0
		会合費	0	0	0
		旅費交通費	0	0	0
		雑費	0	1,000	0
	研究会費		0	75,000	0
		会合費	0	10,000	0
		旅費交通費	0	50,000	0
		支払報酬費	0	0	0
		賃借料	0	5,000	0
		印刷製本費	0	0	0
		通信運搬費	0	5,000	0
		研究会講師謝礼	0	0	0
		雑費	0	5,000	0
	ニュース刊行費		0	20,000	0
		委託報酬費	0	20,000	0
		印刷製本費	0	0	0
		通信運搬費	0	0	0
		業務委託費	0	0	0
事業費支出合計			125,400	986,438	414,295
管理費	役員会運営費		73,096	260,000	0
		会合費	1,640	20,000	0
		旅費交通費	71,456	240,000	0
	渉外関係費		0	0	0
		会合費	0	0	0
		旅費交通費	0	0	0
		福利費	0	0	0
	人件費		0	5,000	0
		臨時職員人件費	0	5,000	0
	管理経費		1,850	16,000	5,206
		消耗品費	0	3,000	2,178
		設備関係費	0	0	0
		印刷製本費	0	0	0
		通信運搬費	1,850	3,000	1,178
		旅費交通費	0	0	0
		賃借料	0	0	0
		光熱水費	0	0	0
		修繕費	0	0	0
		損害保険料	0	0	0
		図書資料費	0	0	0
		業務委託費	0	0	0
		公租公課	0	0	0
		雑費支出	0	10,000	1,850
管理費支出合計			1,850	281,000	5,206
中国四国地域ブロック支出合計			127,250	1,267,438	419,501

当期正味財産増減額	145,652	-542,435	304,547
正味財産期首残高	89,253	835,228	835,228
正味財産期首期末残高	234,905	292,793	1,139,775

一般社団法人日本社会福祉学会 2022 年度事業計画書（抜粋）

1) 中国・四国ブロック委員会の開催

- ・部会委員会の開催（4 回程度）
- ・6 月頃：ブロック大会についての協議
- ・10 月～11 月頃：ブロック大会終了報告及び支出報告、機関誌投稿論文の査読決め等
- ・12 月～1 月頃・・・2023 年度事業計画、予算計画についての協議、2023 年度ブロック大会等
- ・3 月頃・・・2022 年度事業、予算執行状況についての確認

2) 中国・四国ブロック大会：第 53 回中国・四国地域ブロック大会の実施

- ・日時：2022 年 7 月 9 日（土） 9:30-16:30（予定）
- ・場 所：岡山県岡山市 ノートルダム清心女子大学
- ・テーマ： 家族の変容とソーシャルワーク
- ・内 容（対面または Web 開催）：（ア）.基調講演（イ）.シンポジウム （ウ）.自由研究発表

3) 中国・四国ブロック総会（対面または Web 開催）

- ・内容：①2021 年度事業・決算報告 ②2022 年度事業・予算計画の報告

4) 中国・四国ブロック活動の広報強化

- ・電子媒体による会報の発行（回数 ・定期 2 回）
- ・各種情報提供随時

5) 機関誌『中国・四国社会福祉研究』（第 11 号）の刊行

- ・第 11 号原稿の募集（2023 年 2 月）投稿数 4 編以上を目標にする。発刊予定（2023 年 9 月）。

6) 会員連携の共同研究の実施

3. その他事業推進に関わる特記事項

※新型コロナウイルス感染症の感染状況等によっては Web によりブロック委員会およびブロック大会を行うが、予算案においては対面実施を想定する。

(一社)日本社会福祉学会 中国四国地域ブロック 2022年度 予算書【案】

2022年1月〇〇日作成

科		目	2020年度	2021年度		2022年度	備 考
大科目(款)	中科目(項)	小科目(目)	決算額	予算額	決算予測額	予算額(案)	
事業収益			2,570	0	0	65,000	参加費等を明記してください。
	大会参加費収益		2,570	0	0	65,000	会員0円・非会員0円(Web開催を想定)
	開催校助成収益		0	0	0	0	頒布価格を明記してください。
	機関誌売上収益		0	0	0	0	会員(30名)@1,500×30名
	広告料収益		0	0	0	0	非会員(10名)@2,000×10名
	書籍販売収益		0	0	0	0	学生免除
受取寄付金			0	0	0	0	
	受取寄付金		0	0	0	0	
雑収益			3	3	8	4	
	受取利息		3	3	8	4	
	その他の収益		0	0	0	0	
他会計繰入金収入			725,000	725,000	721,400	721,400	
中国四国地域ブロック収入合計			727,573	725,003	721,408	786,404	
【支出の部】							
事業費	大会費		125,400	735,438	216,735	480,774	
		大会会場経費	0	100,000	29,700	80,000	
		大会運営費	124,960	314,448	103,080	225,774	
		大会企画費	0	285,000	76,252	155,000	
		雑費	440	35,990	7,703	20,000	
	機関誌刊行費		0	156,000	197,560	156,000	
		業務委託費	0	120,000	197,560	120,000	
		印刷製本費	0	0	0	0	
		通信運搬費	0	5,000	0	5,000	
		支払報酬費	0	30,000	0	30,000	
		会合費	0	0	0	0	
		旅費交通費	0	0	0	0	
		雑費	0	1,000	0	1,000	
	研究会費		0	75,000	0	75,000	
		通信運搬費	0	5,000	0	5,000	
		会合費	0	10,000	0	10,000	
		旅費交通費	0	50,000	0	50,000	
		支払報酬費	0	0	0	0	
		賃借料	0	5,000	0	5,000	
		雑費	0	5,000	0	5,000	
	ニュース刊行費		0	20,000	0	20,000	
		支払報酬費	0	20,000	0	20,000	
		印刷製本費	0	0	0	0	
		通信運搬費	0	0	0	0	
		業務委託費	0	0	0	0	
事業費支出合計			125,400	986,438	414,295	731,774	
管理費	役員会運営費		73,096	260,000	0	260,000	
		会合費	1,640	20,000	0	20,000	
		旅費交通費	71,456	240,000	0	240,000	
	人件費		0	5,000	0	5,000	
		臨時職員人件費	0	5,000	0	5,000	
	管理経費		1,850	16,000	4,606	16,000	
		消耗品費	0	3,000	2,178	3,000	
		印刷製本費	0	0	0	0	
		通信運搬費	1,850	3,000	1,178	3,000	
		旅費交通費	0	0	0	0	
		賃借料	0	0	0	0	
		業務委託費	0	0	0	0	
		雑費支出	0	10,000	1,250	10,000	
管理費支出合計			1,850	281,000	4,606	281,000	
中国四国地域ブロック支出合計			127,250	1,267,438	418,901	1,012,774	
当期正味財産増減額			600,323	-542,435	302,507	-226,370	
正味財産期首残高			234,905	835,228	835,228	1,137,735	
正味財産期首期末残高			835,228	292,793	1,137,735	911,365	

資料 3. 中国・四国ブロック役員体制

役員名	氏名(敬称略)	所属	代議員	
顧問 (第 53 回大会担当兼)	杉山博昭	ノートルダム清心女子大学	○	理事
委員長	山本浩史	新見公立大学	○	理事 (地域)
副委員長	石井洗二	四国学院大学	○	
事務局長	岡崎利治	川崎医療福祉大学	○	
事務局	土田耕司	就実短期大学	○	
機関誌編集委員長	高杉公人	新見公立大学		
機関誌編集委員	伊藤泰三	県立広島大学		
広報委員長	片岡信之	四国学院大学		
広報副委員長	村岡則子	聖カタリナ大学		
研究担当	杉原俊二	高知県立大学		
研究担当 (第 54 回大会担当)	京 俊輔	島根大学		
研究担当 (第 55 回大会担当)	菱ヶ江 恵子	山口県立大学		
監事	笹川拓也	川崎医療福祉大学		

資料 4. 今後の中国・四国ブロック大会の開催校について

年度	回	県	主催	備考
2010	42	山口	山口県立大学	
2011	43	高知	高知県立大学	
2012	44	岡山	吉備国際大学	会場: 岡山県立図書館
2013	45	徳島	徳島文理大学	
2014	46	広島	県立広島大学	
2015	47	愛媛	聖カタリナ大学	
2016	48	山口	宇部フロンティア大学	
2017	49	広島	広島国際大学	事務局: 広島文教女子大学
2018	50	香川	四国学院大学	
2019	51	高知	高知県立大学	
2020	—	—	—	コロナウィルス感染症延期
2021	52	岡山	川崎医療福祉大学	オンライン(Zoom)にて開催
2022	53	岡山	ノートルダム清心女子大学	対面開催
2023	54	島根	島根大学	※開催決定
2024	55	山口	山口県立大学	※開催決定
2025	56	四国	聖カタリナ大学	
2026	57	広島	福山平成大学	
2027	58	岡山	岡山県立大学	
2028	59	島根・岡山	新見公立大学	
2029	60	山口・広島	広島文教大学	
2030	61	四国	高知県立大学	
2031	62	広島	県立広島大学	
2032	63	岡山	川崎医療福祉大学	
2033	64	島根・岡山	美作大学	
2034	65	山口・広島	周南公立大学または広島文化学園	
2035	66	四国	四国学院大学	
2036	67	広島	広島国際大学	
2037	68	岡山・広島	65回大会で実施されなかった大学またはノートルダム	
2038	69	島根・岡山	島根大学	
2039	70	山口・広島	山口県立大学	

Ⅱ. 2022 年度地域ブロック大会報告

第 53 回岡山大会実行委員長 杉山 博昭（ノートルダム清心女子大学）

中国・四国地域ブロック第 53 回岡山大会を、「家族の変容とソーシャルワーク」をテーマとして、2022 年 7 月 9 日（土）にノートルダム清心女子大学を会場に開催した。ブロック大会は、2020 年は新型コロナウイルス感染拡大のために中止になり、2021 年は川崎医療福祉大学の開催担当で、オンラインで実施した。今回、どのような形態で実施するか苦慮したが、社会状況をみたところ、感染対策をしっかりと実施したうえであれば、ある程度の規模のイベントの実施は可能であると考え、対面で行う方針でのぞんだ。もちろん深刻な事態になれば、オンラインに切り替えざるをえないという前提であったが、何とか対面で実施できた。

会員同士、あるいは講師・シンポジストとの直接の交流、自由研究発表での活発な質疑応答などは対面でないと難しい。多くの会員にとって久しぶりの対面による学会大会で、それらが積極的になされているのをあちこちで見かけた。対面で行うことでの一定の成果はあったと思う。ただ、対面であるために参加を見送った会員もいたかもしれないので、今後のブロック活動の活性化のなかで補っていく必要はあるであろう。



参加者は会員 31 人、非会員 5 人、学生・院生 36 人、合計 72 人で、予想を上回るものであった。特に、開催校以外からの学生の参加が多くあったことは喜ばしいことであった。

大会では、午前中に自由研究発表が行われた。4 分科会を設定しなければならないほどの発表申込があり、各会場で会員の研究成果が報告された。

午後にはまず、同志社大学の空閑浩人先生より、「家族の変容とソーシャルワーク～市井の人々とともにあり続ける創造的な研究と実践を考える～」と題する基調講演が行われた。1 時間という限られた時間のなかで、近年のソーシャルワークの課題や研究のあり方について厳しい問いかけがあり、たくさんの示唆を与えられた。今年度より空閑先生が本学会の会長に就任されたので、会長をお迎えしての大会となったことも幸運だった。



次に、長廻芳行さん、吉田啓さん、増田美佳さんをシンポジストとして、「ヤングケアラーの支援と課題」と題するシンポジウムを行った。長廻さんは実践者として、吉田さんは行政担当者として、増田さんは当事者として、ヤングケアラーについての課題について経験を軸にして丁寧に語った。会場からの質疑も次々に出て、お断りしなければならない場面もあったことは申し訳なかったが、それだけ関心が高く、参加者が主体的にこの問題に向き合おうとしているあらわれであろう。

この2年ほど学会に限らず対面の会議等がなくなっていたこともあって、運営上の不手際がみられたことについてはお詫び申しあげたい。全体としては、会員の協力のもとで有意義な大会になったと考えているので、次年度以降に引き継いでいただき、ブロック内の研究の活性化につなげていくことを期待する。



Ⅲ. リレーエッセイ

「カープと私」

山本克司（安田女子大学）

私は、カープファン。昭和50年に初優勝する前からの筋金入りのカープファンです。最近、「カープ女子」という流行語ができ、全国区になったカープですが、以前は地方の弱小チーム。球団創立から19年連続Bクラス、昭和50年の初優勝までにたった1度だけ3位になったことがあるだけの弱いチームでした。あの「熱血スゴ根」で一世を風靡した巨人の星でさえ、ほとんど相手にされなかった弱小チームです。しかし、私にとっては、人生のかけがえのない伴侶なのです。

私がカープファンになったのは、昭和46年。その年、広島大学医学部附属病院に長期入院しました。手術や療養のつらい生活の中で、同室の同年代の患者さんや当時原爆病棟と称されていた長期入院の患者さんたちといつも話題にでるのは「広島カープ」。カープが私たち入院患者の心の拠りどころでした。

広島カープは、正式名称「広島東洋カープ」。昭和25年の創設です。昭和25年は、日本の社会保障制度が創設された年でもあります。当時の広島は、原爆による荒廃からの復興途上にありました。人々は傷つき、希望を失っていました。そんな中で、地域に夢と希望を与えるために創設されたのが広島カープなのです。広島東洋カープと「東洋」の名が入っているのは、原爆で広島の産業が壊滅的な打撃を受けた中でも比較的軽微な損害で、地域の経済の中核を担っていた東洋工業（現在のマツダ）が財政的な支援をしてくれたことに対する

感謝の気持ちを今も表しているのです。

私は、幼少の頃から今に至るまで、何度となく原爆資料館を訪れています。何度訪れても、涙が止まりません。焼けただれて包帯をした妹を大八車で病院に運んでいるお兄さんの写真や亡くなられた方々の写真を見るたびに、当時の苦しさに思いを寄せ、平和の尊さを考えます。そんな苦しみに希望を与えてくれたのが広島カープなのです。私の住む広島の街のいたるところに原爆の遺構があります。物理的にも精神的にも傷ついた街の復興の希望が広島カープなのです。

球団創設初期のカープの応援歌に「青井グランド緑の風に開く花びら世紀のチーム。ぼくら私ら広島カープ。郷土の希望を背負ってたった男ナインの心意気」という歌詞があります。私は、「郷土の希望を背負ってたった」の歌詞を聴くたびに目頭が熱くなります。

潤沢な資金に恵まれ、思う存分チームの補強ができる巨人と異なり、少ない資金で一生懸命選手を育てるカープ。地域と連携・密着し、地域に貢献するカープ。広島カープは、単に野球に限らず、地域に物的・精神的に無限の可能性を与えています。

ところで、私の専門は、法学と社会福祉学の学際領域の「権利擁護」です。社会的弱者の立場から人権保障や共生社会の実現を研究しています。私がこの分野の研究に入ったのは、球界のマイノリティとして一生懸命頑張ってきたカープの背中を見てきたからです。カープが初優勝して市内をパレードしたとき、遺影をかざしている高齢者を何人も見ました。ほかのチームの優勝では見ることができない光景です。

今、私はカープの本拠地である広島の安田女子大学で教壇に立っています。私の所属する学科は、公共経営学科で公務員を目指す学生が多数在籍しています。私は、カープが苦難のなかでも地域に夢と希望を与えてきた歴史を学生たちに伝え、微力ながらも地域社会に貢献できる学生の教育に励みたいと心から思っています。

IV. 機関誌投稿原稿募集のお知らせ

日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック機関誌
『中国・四国社会福祉研究』第 11 号
投稿原稿募集のお知らせ

現在、中国・四国地域ブロック機関誌（査読あり）は第 11 号の原稿を募集しています。

中国四国地方ならではの社会福祉の諸課題、社会福祉の実践活動を全国に発信してきたいと考えていますので、会員諸氏の積極的な投稿をお待ちしています。

投 稿 要 領 等

- 【執筆要領】 日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』の執筆要領に準じます。
・チェックリスト提出 ・図表含めて 20,000 字以内（A4 40 字
×40 行 ワード作成）・3 部提出 など
※投稿要領等の詳細は一般社団法人日本社会福祉学会HPの
【投稿要領・執筆要領】のページをご覧ください。
<https://www.jssw.jp/publication/journal/rules>

- 【原稿の種類】 「論文・実践報告・資料解題・調査報告」の中から選択して投稿可能です。

【原稿締切】

第 11 号 2023 年 2 月 24 日(金)(2023 年 9 月発刊予定)

積極的なご投稿をお待ちしております。

- 【原稿送付先】 〒718-8585 岡山県新見市西方 1263-2 新見公立大学
高杉公人研究室 中国・四国地域ブロック機関誌編集委員会
事務局宛

その他、ご不明な点は本機関誌編集委員会まで、お問い合わせ下さい。なるべくメールでお問い合わせください。

編集委員会事務局 原稿送付先と同様

Tel: 0867-72-0634（呼出）
e-mail: kimiruhito@niimi-u.ac.jp